

習志野市議会議員 新社会の会

藤崎ちさこ

市議会ニュース

2022年 4月発行

習志野市袖ヶ浦

責任者 藤崎ちさこ

☎ 090-8312-7845



2022年 3月市議会

新型コロナワクチン

急がれる3回目！

新型コロナウイルス感染症の感染が確認されてから、2年以上経過してしまいましたが、日本国内では3回目のワクチン接種が進められています。昨年の1回目の予約時におけるような混乱はないものの、デジタル機器からの予約を苦手とする高齢者には大変なことのようです。もう少し優しい配慮が求められます。

さて、習志野市議会は、2月17日に2022年第1回定例会が招集され、3月23日まで議案が審議されました。今議会は、2022年度一般会計・特別会計予算案、2021年度一般会計・ガス事業会計補正予算案、一部改正条例5件、人事案件4件の審議をしました。主な議案です。

◎2022年度（令和4年度）一般会計予算

【歳入歳出予算額】631億2千万円

【歳入概要】

- ・主な自主財源である市税は、約290億8千万円で、歳入全体の46.1%を占める。主なものは、市民税、固定資産税。

【歳出概要】

- ・民生費 281億2千万円、構成比44.5%
- ・教育費 80億8百万円、構成比12.7%
- ・総務費 75億8千万円、構成比12.0%

◎2022年度（令和4年度）特別会計予算

（1）国民健康保険特別会計

【予算総額】138億1千4百万円

- ・主な歳出は、保険給付費約96億7千万円、加入世帯19,848世帯、加入者数28,400人の見込み。

（2）介護保険特別会計

【予算総額】135億4千万円

- ・第8期介護保険事業計画の2年目第1号被保険者数41,694人、要介護・要支援認定者数7,966人の見込み。

（3）後期高齢者医療特別会計

【予算総額】23億9千8百万円

- ・75歳以上（一定の障がいがある65歳以上）の人を対象とした後期高齢者医療制度は、県内54市町村の「千葉県後期高齢者医療広域連合」が運営する。加入者数23,511人の見込み。

◎2022年度公営企業会計

（1）ガス事業会計

【支出予算合計】107億3千万円

- ・主な建設改良事業は、ガス本支管工事。

（2）水道事業会計

【支出予算合計】35億7百万円

- ・主な建設改良事業は、水道本支管工事、配水本管更新事業。

（3）下水道事業会計

【支出予算合計】116億8千1百万円

- ・主な建設改良事業は、鷺沼放流幹線下水道建設工事委託、津田沼浄化センター改築工事委託。

◎国民健康保険条例の一部改正

- ・「国民健康保険法」の改正に伴い、改正。
- ・未就学児に対して、保険料のうち、均等割の金額の2分の1を減額する。
- ・2022年4月1日から施行する。

◎習志野市海浜霊園及び鷺沼霊堂の合葬式墓地の使用方法について改正

- (1) 合葬室の使用について公募することとし、使用者の資格を規定。
使用料は、24,000円。
 - (2) 納骨室の使用者の資格について、要件を加える。
- ・2022年4月1日から施行する。

◎消防団条例の一部改正

- ・「非常勤消防団員の報酬等の基準」が示されたことに伴い、改正。

階級	改正前報酬額	改正後報酬額
団長	160,000円	155,000円
副団長	130,000円	125,000円
分団長	100,000円	95,000円
副分団長	80,000円	75,000円
班長	50,000円	45,000円
団員	40,000円	36,500円

- ・「出勤報酬」を新設し、支給額を増額する。

改正前	改正後
出勤1回につき、 2,800円	出勤時間の長さにより1回につき、 4,000円～8,000円
警戒又は訓練 1日につき2,800円	訓練 1日につき4,000円

◎続いて、一般質問についてご報告します。

藤崎ちさこの一般質問

今回の一般質問は、前回12月議会と同様、新型コロナウイルス感染症対応のため、時間が短縮となりました。私の一般質問は次の通りです。

1、放課後児童会について

【質問1：藤崎】

児童会の利用・おやつを一律に自粛制限しないで、対策をとって可能性を検討して欲しいがいかがか、伺う。

【答弁：こども部長】

感染の状況を見ながら、児童にとって最善の対策を図って運営に努める。

【質問2：藤崎】

入退室システムの導入は、職員の負担軽減にどのようにつながるのか、伺う。

【答弁：こども部長】

ICカードで入退室が管理でき、また保護者のスマートフォンに入退室を通知。

【質問3：藤崎】

コロナ禍での支援員・補助職員は、心身共に負担が増加している。賃金の特別支給を検討できないか、伺う。

【答弁：こども部長】

国の「放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業」で収入の3%アップが示されたことにより、賃金改善を検討中。

2、コロナ禍の中の市民生活支援の取組について

【質問1：藤崎】

「住居確保給付金」は期間が延長され、「生活福祉資金貸付制度」に特例制度がもうけられ、市独自の「生活資金貸付」

も実施された。長引くコロナ禍、今後も支援の延長・償還の緩和策などの取組を求めるが、いかがか伺う。

【答弁：健康福祉部長】

今後も国の動向を注視し、必要な対応について検討していく。

【質問2：藤崎】

子育て世帯や非課税世帯への支援、特に子育て世帯への支援が重視されているが、コロナ禍で困窮する若者・大学生等の支援が抜け落ちているように感じる。どのような支援を受けることができるのか、伺う。

【答弁：健康福祉部長】

国の「学生等の学びを継続するための緊急給付金」、「高等教育の修学支援制度」を市ホームページ等で周知している。

【質問3：藤崎】

困窮する若者・大学生等に、食料などを無償で提供する支援を検討していただけないか、伺う。

【答弁：健康福祉部長】

現在、市では実施していないが、「らいふあっぷ習志野」、フードバンクなどをご案内している。関係各団体と連携し、必要とする支援につなげるように対応していく。

3、習志野市における子どもの権利条例制定に向けた取組について

【質問：藤崎】

1989年、国連総会で「子どもの権利条約」が採択された。日本では国に先立って2000年に川崎市が「子どもの権利条例」を制定し、現在までに約50自治体が条例を制定している。一方、日本は、国連子どもの権利委員会から「取組が不十分である。」と、対策強化を求められている。政府の有識者会議は岸田首相に対し、子どもの政策の基盤となる「子ども基本法（仮

称）」の制定を検討するよう求める報告書を提出した。それを受けた岸田首相は、「子ども目線に立って縦割り行政をなくす。」と決意を述べた。昨今、いじめ・児童虐待・子どもを巻き込んだ犯罪等が多数発生し、大変深刻な状況である。今こそ「子どもの権利」について考え、尊重することを確認する必要がある。本市の「子どもの権利条例」の制定に向けた取組の現状を、伺う。

【答弁：市長】

「（仮称）習志野市虐待・暴力・いじめ・差別から自身や大切な人を守る都市宣言」の制定を目指し、パブリックコメントを実施中。まずは、コロナ禍という特殊な状況下、子どもから高齢者まで包摂する宣言を目指している。（解説：包摂とは包み込むことを意味する。）

【要望：藤崎】

都市宣言に留めるだけでなく、子どもの権利条例の制定を目指し、かつてそうであった「子育て日本一のまち」を再び目指す、前向きな取組を要望する。

議案・陳情に対する賛否の理由

【2022年度一般会計補正予算】

放課後児童会の民間委託化が急速である、市民の暮らしの向上が不十分な予算であるため、反対。

【2022年度国民健康保険特別会計予算】

制度の都道府県化により保険料が高くなる構造であるため、反対。

【2022年度介護保険特別会計予算】

介護保険料が高く、高齢者に重い負担を求める構造であるため、反対。

【国民健康保険料均等割の減額】

世帯内人数の多い世帯の保険料負担が軽減されるため、賛成。

議案・請願・陳情に対する議員の賛否

所属会派	氏名	2022年度年度 一般会計予算	2022年度 国民健康保険特別会計	2022年度介護 保険特別会計	国民健康保険料 均等割の減額
新社会の会	藤崎ちさこ	×	×	×	○
市民の会	宮内 一夫	×	×	×	○
日本共産党	谷岡 隆	×	×	×	○
	荒原ちえみ	×	×	×	○
	入沢 俊行	×	×	×	○
環境みらい	央 重則	○	○	○	○
	市角 雄幸	○	○	○	○
	中山 恭順	○	○	○	○
	市瀬 健治	○	○	○	○
民意と歩む会	木村 孝	○	○	○	○
	佐野 正人	○	○	○	○
	立崎 誠一	○	○	×	○
	宮城 壮一	○	○	○	○
都市政策研究会	平川 博文	○	○	○	○
真政会	荒木 和幸	○	○	○	○
	宮本 博之	○	○	○	○
	鮎川 由美	○	○	○	○
	斎藤 賢治	欠	欠	欠	欠
	佐々木秀一	○	○	○	○
公明党	小川利枝子	○	○	○	○
	清水 晴一	○	○	○	○
	布施 孝一	欠	欠	欠	欠
	真船 和子	○	○	○	○
	木村 孝浩	○	○	○	○
元気な習志野 をつくる会	田中真太郎	○	○	○	○
	関根 洋幸	○	○	○	○
	高橋 正明	○	○	○	○
	相原 和幸	○	○	○	○
	飯生 喜正	○	○	○	○
	清水 大輔	議長	—	—	—
結果		22 : 5 可決	22 : 5 可決	21 : 6 可決	全員賛成 可決